

DSP Control Center 3 ユーザーマニュアル

AUDIO))) BRAINS

内容

概要	4
ソフトウェアの動作環境.....	4
ソフトウェアの入手.....	4
ソフトウェアのインストール.....	4
ソフトウェアの使用方法	5
スタートアップウインドウ.....	5
設定ウインドウ.....	5
タイトルバー.....	6
File メニュー.....	6
Tools メニュー.....	6
ソフトウェアと機器の接続.....	7
シグナルメーター.....	8
プリセット.....	8
プロセッシングブロック	9
Local Input #x.....	10
Gain / Trim.....	11
Compressor / Limiter.....	12
Filters.....	13
Ducker.....	14
Delay.....	15
Output #x.....	16
MATRIX MIXER.....	17

概要

ソフトウェアの動作環境

Windows PC (1GHz 以上のプロセッサ)

- Windows Vista / 7 / 8.1 / 10
- 20MB 以上の空きスペース
- 512MB 以上の RAM
- Microsoft .NET Framework 4.0 以上

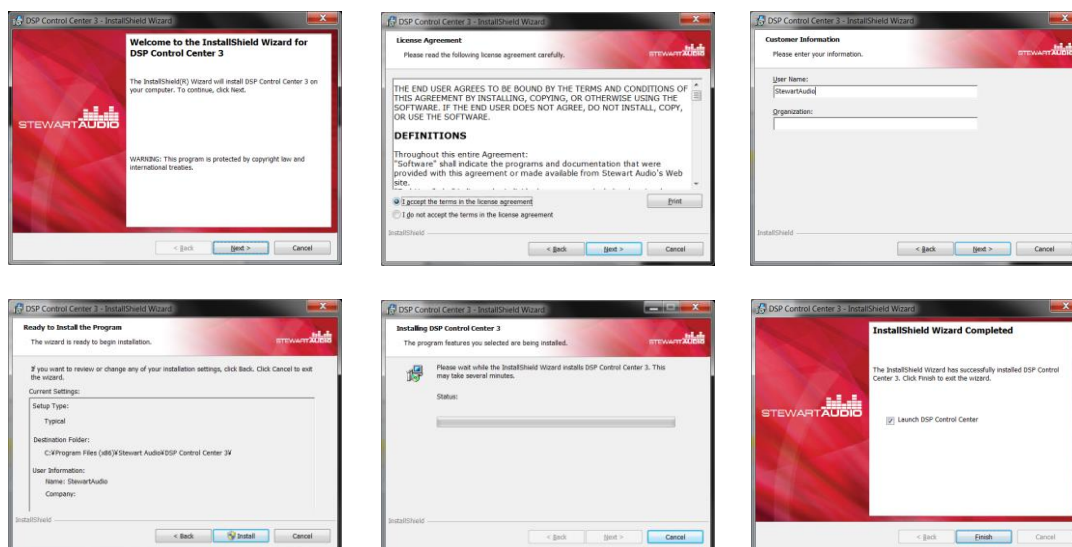
ソフトウェアの入手

DSP Control Center3 ソフトウェアは下記 Web サイトからダウンロードしてください。

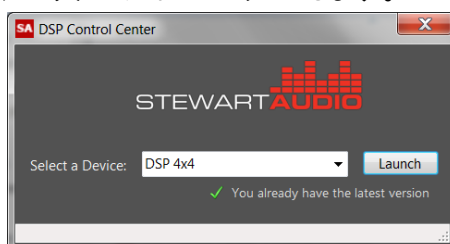
<http://www.audiobrain.com/download/stewart/>

ソフトウェアのインストール

ダウンロードが完了したらインストーラーを起動し、画面の指示に従ってインストールしてください。

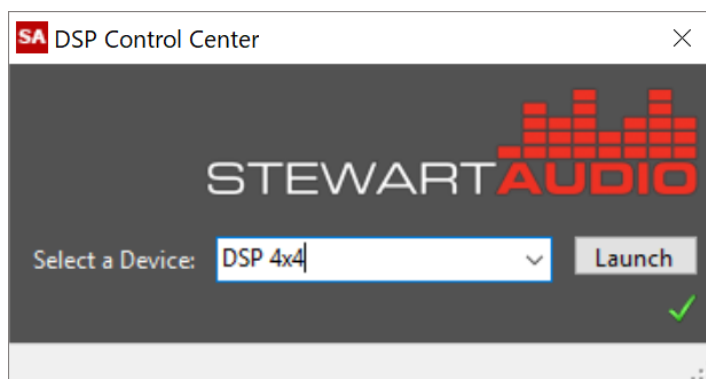


インストールが完了するとアプリケーションがスタートします。



ソフトウェアの使用方法

スタートアップウィンドウ



アプリケーションは起動すると上記のスタートアップウィンドウが表示されます。

使用する Stewart Audio パワーアンプ及び DSP を選択して Launch ボタンを押し、設定ウィンドウを開きます。

※コンピューターがインターネットに接続されている場合、ソフトウェアは自動的にアップデートがないかチェックします。アップデートの必要がない場合は最新バージョンを示す緑のチェックマークが表示されます。

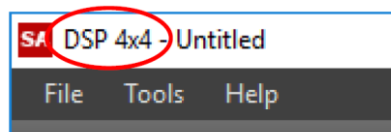
設定ウィンドウ

スタートアップウィンドウで機器を選択すると設定ウィンドウが表示されます。この設定ウィンドウは DSP によって変わります。下記は DSP 4x4 用の画面となります。



タイトルバー

現在設定している機器名と、開いている設定ファイル名が表示されます。設定ファイルが変更され保存されていない場合は設定ファイル名の後に*マークがつきます。



File メニュー

• Open Configuration<Ctrl+O>

Windows ファイルブラウザを開き、以前に保存した設定ファイルを選択して開きます。

機器がつながっている状態で、現在の設定が変更されている時に別のファイルを開こうとすると、開こうとしているファイルを機器に読み込ませるか、通信を切断するか選ぶウインドウが表示されます。

• Save Configuration<Ctrl+S>

現在の設定を上書き保存します。設定ファイルは拡張子.scfg ファイルになります。

• Save Configuration As...<Ctrl+Alt+S>

現在の設定を別名で保存します。

• Restore Default Settings

デフォルト設定を呼び出します。

現在の設定が変更されている場合にデフォルト設定を呼び出そうとすると、デフォルト設定を機器に読み込ませるか、通信を切断するか選ぶウインドウが表示されます。

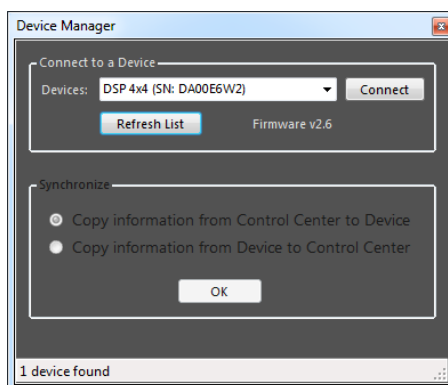
• Exit

設定ウインドウを終了します。設定ファイルが保存されていない場合は警告ウインドウが表示されます。

Tools メニュー

• Open Device Manager

デバイスマネージャーウインドウを表示します。

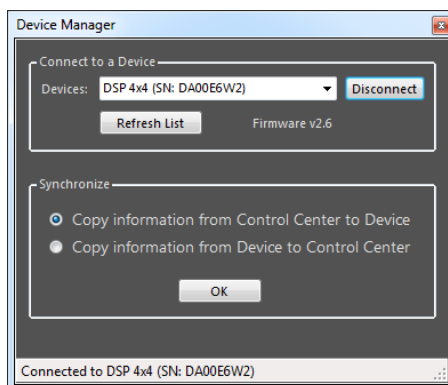


※詳細は次頁の[ソフトウェアと機器の接続]をご参照ください。

ソフトウェアと機器の接続

ソフトウェアと機器を接続するとリアルタイムにメーターを監視したり値を設定することができます。機器と接続するには Tools メニューから Open Device Manager を開くか、画面上部の [Connect] ボタンを押します。

デバイスマネージャーウィンドウを開くとコンピューターに接続されている機器が自動的に検出され、機器とそのシリアルナンバーとファームウェアバージョンが表示されます。



プルダウンリストから接続する機器を選択し Connect ボタンを押します。
その後接続するためにファイル同期のオプションを選択します。

•Copy information from Control Center to Device

コンピューターで開いている設定を機器に流し込む場合はこちらを選択します。

•Copy information from Device to Control Center

機器に入っている設定を吸い出す場合はこちらを選択します。

任意の設定を選択し OK を押すとファイルの通信が始まります。この通信は最大 1 分程度かかる場合があります。ファイルの通信が終了すると自動的にデバイスマネージャーウィンドウは閉じられ設定ウィンドウに戻ります。

接続状態の間は設定ウィンドウに Status:CONNECTED と表示され、以下の機能が有効になります。

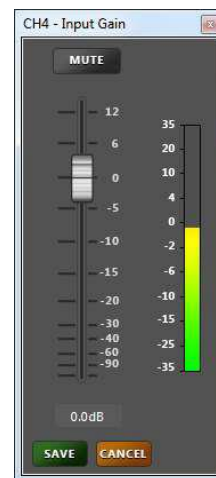
- 設定変更をリアルタイムで反映
- シグナルメーターの表示
- プリセットの変更

※機器との接続を解除するには DISCONNECT ボタンを押すか、デバイスマネージャーウィンドウを表示してください。また、データの転送中に機器を切断しないでください。

シグナルメーター

シグナルメーター機能は各ポイントでの RMS 信号レベル(dBV)をモニターするために利用します。

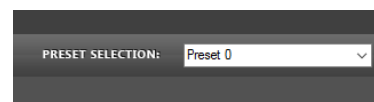
メーターは+35dB から-35dB まで表示することができますが、全ての処理ブロックのヘッドルームは+24dB のため、+24dB より高い信号はクリップします。



プリセット

プリセットはアンプの全ての状態を保存し、RS232c などから呼び出すことができます。

ソフトウェアを使用したプリセットの呼び出しは、設定ウインドウ画面右上の PRESET SELECTION から行います。プルダウンリストから任意のプリセットを選択すると自動的にそのプリセットが呼び出されます。プリセットのパラメーターをロードしている間、一時的にロード中を示すウインドウが表示されます。



プリセットは自動的に保存されます。そのためプリセットを作成する場合は、保存したいプリセットを呼び出してから任意のパラメーターに変更します。

DSP4x4 と FLX シリーズは 10 個のプリセットを持っています。

DSP100 シリーズは 1 個のプリセットを持っています。

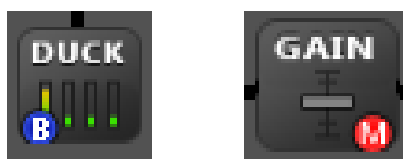
プロセッシングブロック



ブロックと呼ばれる各アイコンをクリックするとそのブロックの中に入ることができます。

各ブロックは一覧表示画面から状態を確認することができ、一部のブロックはマウスカーソルをのせることで内部のパラメーターを表示することもできます。

- ・ブロックがバイパス状態の場合は下図の様に青い B 印が表示されます。
- ・ブロックがミュート状態の場合は下図の様に赤い M 印が表示されます。



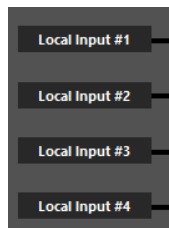
- ・パラメーターの変更はテキストボックス横の上下ボタンかテキストボックスに入力します。
また、メーター上のドットをドラッグする事でも変更するができ、直感的なコントロールを提供します。

- ・機器と CONNECTED 状態の時はパラメーターを変更するとリアルタイムに反映されます。
パラメーターの設定が完了したら SAVE を押してウインドウを閉じます。
CANCEL を押すと設定したパラメーターは反映されず以前の値に戻りウインドウを閉じます。



- ・各ブロックはシグナルメーターを搭載しています。シグナルメーターは機器と CONNECTED 状態の場合にのみ表示されます。

Local Input #x



Local Input #x と書かれているところを選択すると入力設定ブロックに入る事ができます。入力設定ブロックでは表示する名前の変更やプリアンプゲインレベルの設定、ファンタム電源のオン/オフを設定します。

入力の設定は後段に接続されているブロックに大きな影響を及ぼすため、通常最初に設定します。

•Display Name

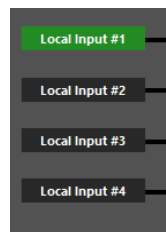
設定ウインドウ上に表示する名前を編集することができます。設定された名前は MatrixMixer 上にも表示されます。また、使用できる文字は英数字のみです。

•Input Type

ハードウェアのプリアンプゲインレベルを変更することができます。接続する機器にあわせてプルダウンリストから選択してください。

•Phantom Power

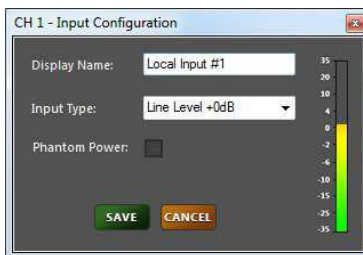
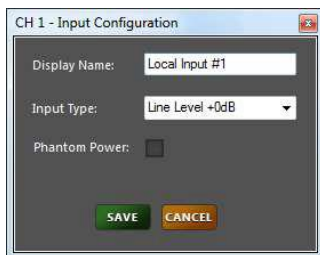
機器がファンタム電源に対応している場合はチェックボックスが表示されます。チェックを入れると警告ウインドウが表示されるので、ファンタム電源を出力する場合は[はい]を選択してください。ファンタム電源を出力しているチャンネルは右図の様に緑色になります。



※ファンタム電源を出力している状態で入力ゲインをラインレベルに変更すると、機器を保護するため自動的にファンタム電源はオフになります。また、ラインレベルでもファンタム電源は出力することができます。

•Signal Meter

入力設定ブロックのシグナルメーターはプリアンプゲイン後の入力メーターが表示されています。



Gain / Trim



Gain 及び Trim ブロックは様々な場所に配置されており、ゲインレベルの設定およびモニター機能を備えています。Gain ブロックは 1 ブロックあたり+12dB、Trim ブロックは減衰のみを行うことができます。

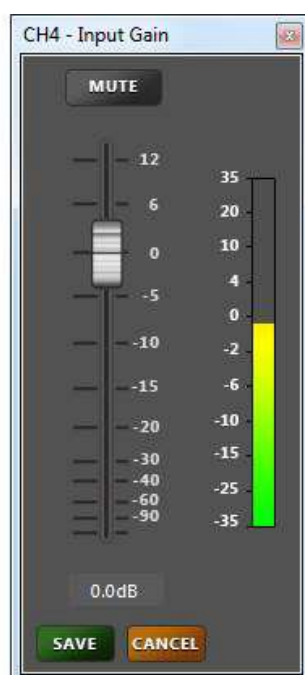
ゲインの調整はフェーダーをドラッグすることで調整することができます。

ミュートボタンを押すと MUTE から MUTED と表記が変わりミュート状態になります。



ミュート状態の場合、そのブロックには右図のような赤い印が表示されます。

シグナルメーターにはそのゲインブロックの出力信号レベルを dBVrms で表示します。



Compressor / Limiter



Stewart Audio DSP シリーズは一般的なコンプレッサー及びリミッターを各チャンネルに搭載しています。

設定可能なパラメーターは以下の通りです。

• Threshold

任意のスレッシュホールド値を-60dB から+10dB の間で指定します。

• Ratio

任意のレシオ値を 1:1 から 100:1 までの間で指定します。

※Limiter のレシオ値は 100:1 で固定されています。

• Soft Knee

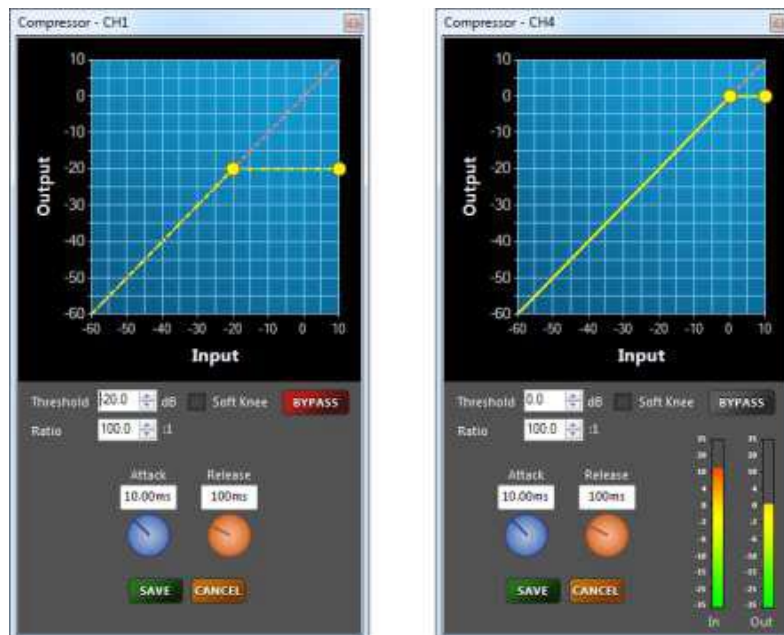
Knee を変更します。チェックを入れるとソフトニーになります。

• Attack

アタックタイムを 1mS から 1S までの間で指定します。

• Release

リリースタイムを 10mS から 30S の間で指定します。



Filters



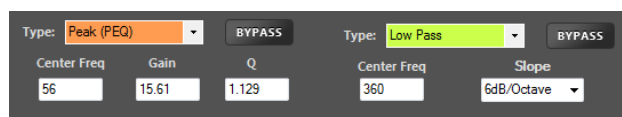
Stewart Audio DSP シリーズは各入力に 3 バンドのフィルター、各出力に 6 バンドのフィルターを搭載しています。各フィルターは対応した色で表され、バイパス状態は点線で表されます。黄色線が合成値となります。

選択可能なフィルタータイプは以下の通りです。

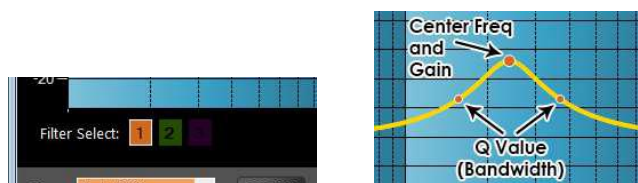
- **Low Pass**
- **High Pass**
- **Low Shelf**
- **High Shelf**
- **Peak(PEQ)**
- **Notch**



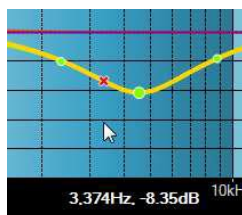
フィルタータイプを選択すると周波数とゲイン、スロープを入力もしくは選択するボックスが表示されます。



各フィルターはグラフ上からドラッグする事で設定する事もできます。その場合は Filter Select の項目から任意のフィルターを選択してください。



黄色線をクリックしている間は赤の×印が表示され、そのポイントの周波数と合成されたフィルターの値が表示されます。



Ducker



Stewart Audio DSP シリーズはダッカー機能を搭載しています

このダッカー機能は1つのオーディオチャンネルを他のチャンネルより優先することができ、ペーシングシステムなどで利用されます。

設定可能なパラメーターは以下の通りです。

•Priority Channel

優先させる入力をプルダウンリストから選択します。選択された入力チャンネルが設定されたスレッショルド値に達すると、設定された他のチャンネルをダッキング(減衰)します。

•Duck the following

ダッキングされるチャンネルを選択します。緑のチェックが入っていないチャンネルはダッキングされません。

•Threshold

任意のスレッショルド値を-60dB から+10dB の間で指定します。

•Depth

任意のデプス値を-60dB から+10dB の間で指定します。デプス値とはダッキングされる減衰量を指します。

•Attach

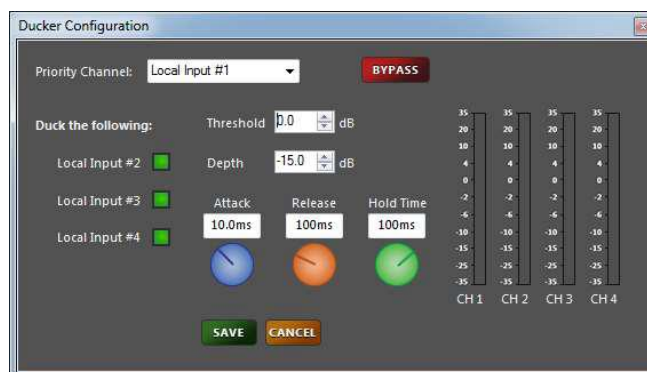
アタックタイムを 1mS から 1S までの間で指定します。

•Release

リリースタイムを 10mS から 30S の間で指定します。

•Hold Time

ホールドタイムを 100mS から 10S の間で指定します。



Delay



Stewart Audio DSP シリーズは各出力に最大 80ms のディレイを搭載しています
※Dante 対応モデルには搭載されていません。ご注意ください。

ディレイブロックは下記の通り 3 種類の設定方法があり、全てのパラメーターは同時に動作し
ます。

・mS

ミリ秒で設定する場合は赤のつまみを使用します。

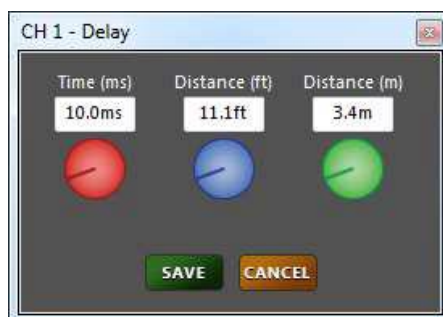
※テキストボックスには S で入力します。(1mS の場合は 0.01 と入力してください。)

・Distance(ft)

フィートで設定する場合は青のつまみを使用します。

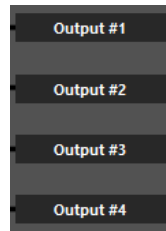
・Distance(m)

メートルで設定する場合は緑のつまみを使用します。

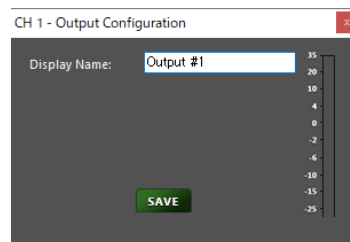
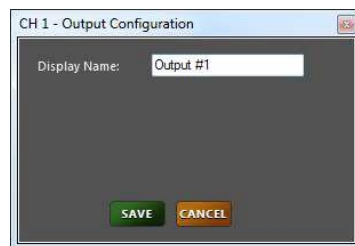


※値は華氏 70°F(21.1°C)を想定しており、343m/s(1,126ft/s)で計算されます。

Output #x



Output #x と書かれているところを選択すると出力設定ブロックに入る事ができます。
出力設定ブロックでは表示する名前の変更を設定します。



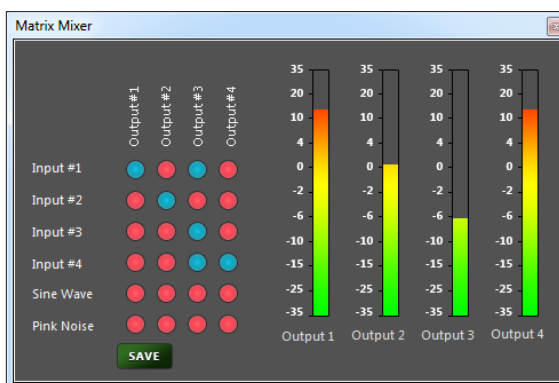
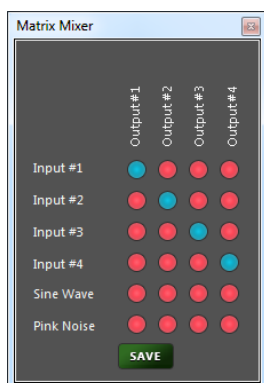
MATRIX MIXER



マトリクスミキサーブロックは入力信号及び内部オシレーターを出力バスにミキシングしてルーティングします。

マトリクスミキサーは小さな丸いボタンで表された Gain ブロックの集合体です。丸いボタンをクリックすると Gain ブロックと同様のウィンドウが表示され、各クロスポイントのレベルを設定することができます。入力は左側にあり、出力は上側にリストされています。ミュートされているクロスポイントは赤色で表示され、ミュートされていないクロスポイントは青色で表示されます。

Sine Wave は 1kHz のサイン波を、Pink Noise はピンクノイズを他の入力と同様にルーティングすることができます。



この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは株式会社オーディオブレインズまでご連絡ください。お問合せ受付時間は、土日祝日、弊社休業日を除く 10:00~18:00 です。

株式会社オーディオブレインズ

〒216-0034

神奈川県川崎市宮前区梶ヶ谷 3-1

電話 : 044-888-6761

AUDIO  **BRAINS**

20180308